

町のちよう の かしば 町名考 じょう ご 五 条 野 町

県内で有数の丸山古墳

「五条野」の地名は古代、耕地を区画整理した「条里制」にちなむかと思われるが、その条里制で「高市郡三十一条」となり当たりません。同町に史跡・丸山古墳があることから、古墳のある一帯を言い表す御陵野（ごりょうの）御廟野（ごびょうの）から、五条野（ごじょうの）に転じたとする説がいまのところ有力です。

県内有数の前方後円墳（全長三二〇メートル）で、かつて「見瀬（みせ）丸山」とも呼ばれた古墳は、国道一六九号の東側に沿う同町から隣の大軽町にかけて横たわっています。死者の棺を納める石室の全長が、明日香村の石舞台（一九・一メートル）を超える二八・四メートルもあり、その規模の大きさから欽明天皇（六世紀）を葬った御陵でないかとみられています。

江戸時代に奈良・大和を探訪した国学者・本居宣長が、旅日記に「軽を離れて猶（なお）西へゆかば、やや高き所なる道の南に、なほ高くまろ（円）に見ゆる岡あり」と、丸山古墳のことを書き記しています。やはり当時もひとときわ目立っていたのでしょう。